

日本大学工学部

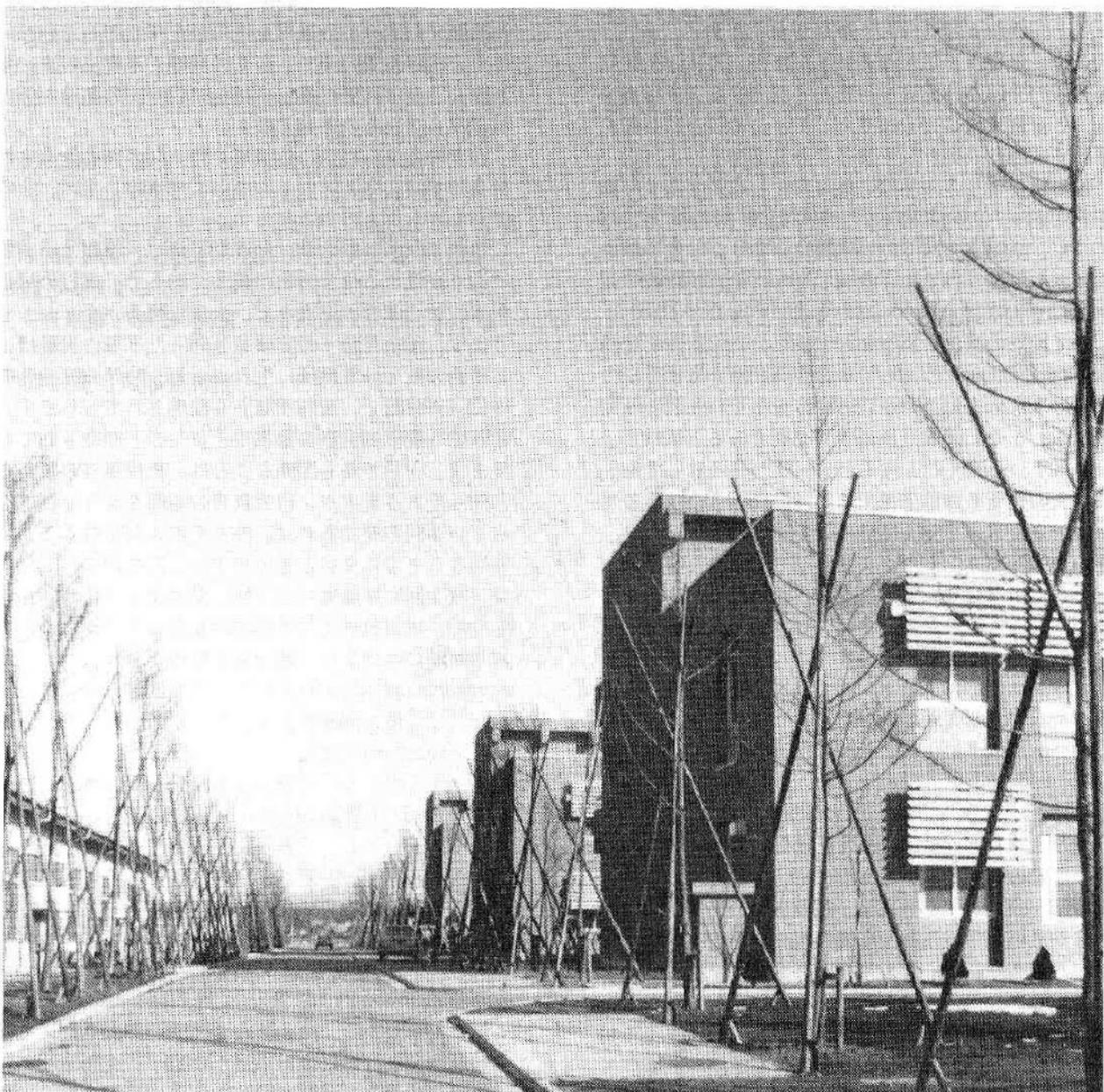
校友会報

第 35 号

昭和 55 年 3 月 1 日

目 次

あいさつ（工学部長・校友会長）	2
第22回総会報告	3～4
各支部総会報告	5
校友教授の誕生を祝す	6
会員名簿の管理の電算機処理を	7
始めるにあたって	
校友の短信	8～9
海外視察記	10
CAMPUS mini MEMO	11
事務局だより、総会通知	12



54年7月に完成した実験棟

ごあいさつ



日本大学工学部長
廣川友雄

工学部卒業の諸兄におかれては、新らしい年を迎えて益々御健にそれぞれの道に精進され、今年も希望の年とされるよう心から祈っております。

昨年4月、外木前学部長の後を受けて工学部長として勤めて参りましたが、先生方の御精励と、学生諸君の努力により大過なく新年を迎えることができましたこと、大変よろこびしく存じております。

この一年種々なことがありましたが、要は学生諸君が将来の立派な技術者を目指して努力するよう指導することが第1のことでありまして、このことに目標を置いて企画し、実行して参っております。

最も伸び盛りの4年間、最も変化し成長する4年間をわがキャンパスで過ごし、一生の母校、すなわち母港として、築立って行くのに遗漏はないか、一生母校をなつかしみ誇り得るよう教育したか、それを自戒の規準として、精進してゆきたいと思っております。

さて校友の諸兄も御存知のように、日本を支えている屋台骨は日本人の持っている工業技術であります、諸君の多くはこれを身を以って体現していられる所であります。優秀な技術者が必要であると同時に、レンズ1つみがくにしても、ビス1つ作るにしても、日本人の作るものは立派である所に日本人全体としての優秀さが日本を支えているといえましょう。

しかし、オリンピックに勝つこと、優れた音楽家が世界に名声をはせること、などが無駄だというのではありません。これらのこととは、日本人に自信を持たせ、やる気を起こさせるでしょう。それと共に世界の人達は日本人に親しみを持ち、信頼感をよせるようになります。やがて日本人が各分野で世界をリードするための土台にもなるでしょう。本学部においては「やる気があり、やれる者」を教育することを目標に努力しているのであります。

校友の諸君も後輩が育つことは母校のためでもあります。校友のためでもありますので、各自許すかぎりの御援助を頂きたく存じます。校友会においては学生の下宿がその勉学に及ぼす影響の大きいことを察知し、早くから御世話頂いております。また近年卒業生の就職のむつかしかった時期以来その世話にも乗り出し、殊に昭和54年度からは卒業生名簿をコンピューターにて処理し、各種の分類型式を整え、卒業生の就職に対して便宜を計ってくださされたのは誠に有難いことあります。これは卒業生間の連絡の上にも大いに役立つことでしょう。

おわりに、校友諸兄のさらに御努力と御幸福を祈ります。（日本大学教授・工学部校友会顧問）

ごあいさつ



日本大学工学部校友会会长
武田仁幸

昨年4月、総会の議により再度本会の会長の要職を拝命して以来、およそ1年が過ぎ、つがなく新春を迎えることができました。これも会員各位ならびに関係各位のご協力とご鞭撻によるものと存じ上げ、心から御礼と御慶びを申し上げるものであります。

さて、昭和54年度は日本にとって政治的にも経済的にも誠にむづかしい選択を迫られた年であったと思います、国際社会の中で、多くの問題が未解決のまゝ年越し、今年は更に厳しい状況で我が国の前途を拓かねばならないものと考えます。

校友の皆さんには、各職場で精一杯の努力をなされ社会の要請に応えておるものとご推察申し上げ、その労をねぎらうものであります。

母校工学部も創成期、発展期を経て、現在は充実期にあり変動する社会情勢の荒波に耐えて、施設の拡張整備、教授陣容の充実など、大変な努力がなされております。20余年我々の実験を見守った平屋の実験棟は2階建の新しい実験棟に生まれ変わり、昨年の夏期休暇中に一斉移転し、後期授業から使用されております。これで一層学生実験の効果が上がるものと期待しております。大学で最も困難なことは、教授陣容の確保だと伺っておりますが、研究教育の両面を全うせねばならない学問の府であれば、仲々その人材を得ることは容易なことではないと思います。こんな折に、国分欽智（電1回）、後藤尚（化2回）、菊池光子（化2回）各先生が、校友教員として母校の教壇に立つかたわら、鋭意研鑽にはげまれ、博士号を取得なされ、ついに母校の教授に就任なされました。本学開設以来、実に30余年にして得た快挙であります。学問の道は一朝一夕にして成るものではなく、この価値は万石の重みを有すると申しても良いと思います。母校には数十名の校友が教職員としてのこられて、学究の道を歩まれておりますが、いずれは3教授につづかれ、母校発展の御力になられるものと思います。

本会の活動の趣旨は、母校の発展のために会員の力を結集することでありまして、支部の拡充、名簿管理の合理化（コンピューター化）などは、その一方途にすぎません。

工学部父兄会は、本会の事業に深い理解を示され、特に在学生の就職活動の円滑を期して、名簿のコンピューター化では、経費の一部負担を快諾するなど、強力な後援をうけ使命の重大さを痛感するものであります。末筆ながら会員ならびに関係各位の御発展を祈念し、本会発展のためご支援をお願い申し上げます。

（土木工学科第3回卒業、東和工業株式会社）

昭和54年度第22回定期総会報告

第22回定期総会は、昨年度の開催場所と同じ、日本大学郡山研修会館に於て、5月12日(土)午後3時より会員多数出席のもとに開催された。

昭和53年12月には本会、創立20周年を記念し特集号(会報第34号)を発刊、また本年度からは会員名簿の管理の電算機導入等、新らしい時代の幕あけの総会でもあった。

さて総会は太田副会長の開会の辞に始まり、武田会長が会員多数参集されたことに対する感謝と、選挙の為に総会が5月に変更になったこと、新らしい時代へ向っての事業計画等について挨拶、次いで議長に後藤尚(化2回)、書記に曾部忠義(電20回)、寺山喜信(土23回)、議事録署名人に池田澄幸(土5回)、細井和由(土5回)の各氏がそれぞれ選出され、直ちに議事に入った。議事内容下記の通り。

報告第1号 昭和53年度事業報告について

承認第1号 昭和53年度一般会計収支決算報告(別表)

承認第2号 昭和53年度特別会計収支決算報告(別表)

議案第1号 昭和54年度事業計画について

議案第2号 昭和54年度一般会計予算について

議案第3号 会員名簿の電算機処理に関する件

議案第4号 職員退職給与積立金特別会計について

議案第5号 昭和54年度役員選出について

議案第6号 その他

議事の進行と結果は次の通り。

報告第1号 佐藤事務局長より報告 報告通り承認

承認第1号 武藤経理部長より報告 報告通り承認

承認第2号 武藤経理部長より報告 報告通り承認

議案第1号 西村事業部長より報告 会員名簿の電算機処理についての詳細説明、本年度は校友会会報を年1回発行となった理由等、事業計画に対する活潑な質疑応答が行われたが報告通り承認された。

議案第2号 武藤経理部長より報告 会報発行費、式典費の内容等について質疑応答があったが、原案通り承認された。

議案第3号、議案第4号は武藤経理部長より一括提案説明があり、電算機導入には新らしいものだけに慎重に取りくんでほしい旨要望があり、承認された。

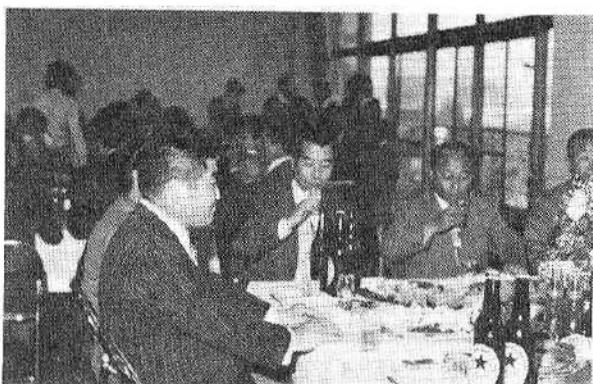
議案第5号 役員の選出方法で難行したが、選考委員を設けて、選出することになり、別室において長時間にわたり新役員の選考を行った。その結果選考委員を代表して関根昭一(電2回)氏より新役員の発表があった。しかし事務局長に選出された高野操(化3回)氏より健康上等の理由より辞退する旨の申し出があつたため、協議の結果、取扱いについては会長一任とすることで承認された。以上をもって議案の審議を終わり、半沢副会長の挨拶で閉会となった。

引続き、日本大学副総長加藤涉先生、工学部長広川

友雄先生、日本大学校友会福島県支部長高橋堯氏、父兄会長籠一吉氏ほか多数来賓の御出席のもとに懇親会が開かれた。旧友まじわる中での話題は多く、いつしか、テーブルには酒友同志が集まり、酒盃をとりかわす仲となり、一年を回顧し新らしい年への決意を新たにし最後に校歌を合唱し来年の再会を約し散会した。



— 総会風景 —



— 懇親会の模様 —

別 表

昭和53年度一般会計収支決算書

款項	種目	歳 入		単位円 △…減
		予算額	決算額	
会 費	1 終身会費	5,000	6,186,000	6,181,000
	2 入会金	5,000	12,543,000	12,538,000
	計	10,000	18,729,000	18,719,000
緑送金	3 前年度繰越金	10,625,106	10,625,106	0
	計	10,625,106	10,625,106	0
雜 入	4 預金利息	100,000	55,000	△ 41,000
	5 雜入	10,000	156,100	146,100
	計	110,000	215,100	105,100
繰入金	6 基本財産より繰入	2,864,894	0	△ 2,864,894
	計	2,864,894	0	△ 2,864,894
	合 計	13,610,000	29,569,206	15,959,206

昭和 54 年度 役員名簿

歳出

款項	種目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減
事務費	1 給料・手当	3,601,000	0	3,611,000	2,827,037	△ 813,963
	2 保険料	364,000	0	364,000	310,413	△ 53,587
	3 交通費	350,000	0	350,000	350,000	0
	4 旅費	165,000	0	165,000	141,200	△ 23,800
	5 交際費	300,000	0	300,000	272,740	△ 27,260
	6 消耗品費	100,000	△ 13,920	86,080	78,395	△ 7,685
	7 印刷製本費	35,000	0	35,000	20,000	△ 15,000
	8 通信運搬費	300,000	0	300,000	235,272	△ 64,728
	9 修繕維持費	10,000	0	10,000	2,000	△ 8,000
	10 光熱及水道料	30,000	0	30,000	30,000	0
	11 雑費	60,000	0	60,000	58,100	△ 1,900
	計	5,535,000	0	5,535,000	4,519,077	△ 1,015,923
事業費	13 組織寸筆費	150,000	0	150,000	150,000	0
	14 会報発行費	55,000	0	55,000	55,000	0
	15 名簿作成費	540,000	0	540,000	539,900	△ 100
	16 下宿寸筆費	10,000	0	10,000	8,980	△ 1,020
	17 図書供与費	500,000	0	500,000	500,000	0
	18 卒業式典費	1,150,000	0	1,150,000	883,880	△ 266,120
	19 負担・補助・援助費	650,000	0	650,000	650,000	0
	20 旅費	450,000	0	450,000	411,740	△ 38,260
	計	3,505,000	0	3,505,000	3,199,500	△ 305,500
	21 会議費	400,000	0	400,000	399,985	△ 15
会議費	22 役員会費	350,000	0	350,000	344,010	△ 5,990
	23 連絡協議会費	400,000	145,253	545,253	545,253	0
	24 旅費	500,000	0	500,000	433,620	△ 66,380
	計	1,650,000	145,253	1,795,253	1,722,868	△ 72,385
予備費	25 予備費	920,000	△ 145,253	774,747	768,010	△ 6,737
	計	920,000	△ 145,253	774,747	768,010	△ 6,737
積立金	26 積立金	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0
	計	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0
	合計	13,610,000	0	13,610,000	12,209,455	△ 1,400,515

歳入額 29,563,26円 歳出額 12,209,455円
差引残額 17,359,75円を翌年度へ繰越するものとする。

昭和 53 年度 特別会計収支決算書

歳入

款項	種目	予算額	決算額	比較増減
総括金	1 基本財産より繰入金	4,100,000	4,100,000	0
繰入	2 雜入	350,000	950,000	0
	合計	5,650,000	5,050,000	0

歳出

款項	種目	予算額	流用の範囲額	予算現額	決算額	比較増減
会議費	1 賃金	50,000	144,600	194,600	194,600	0
持行費	2 旅費	20,000	4,700	24,700	24,700	0
集会費	3 消耗品費	130,000	19,780	149,780	149,780	0
発行費	4 印刷製本費	2,250,000	142,610	2,392,610	2,392,610	0
	5 通信運搬費	2,350,000	△ 311,330	2,238,670	2,238,670	0
	6 会議費	50,000	△ 360	49,640	49,640	0
	合計	5,050,000	0	5,050,000	5,050,000	0

歳入額 5,050,000円 歳出額 5,050,000円
差引残高 なし

役名	姓	氏名	勤務先
会長	土3	武田 仁幸	(自営) 東和工業株式会社
副会長	化6	平沢 忠	パラマウント硝子工業株式会社研究課
	土8	武藤 貞泰	郡山市役所下水道課
事務局長	機9	佐藤 光正	日本大学工学部機械工学科
理事・経理部長	建7	小栗 治男	日本大学工学部建築学科
理事・事業部長	土13	西村 孝	日本大学工学部土木工学科
理事	土3	松山 光克	郡山市水道局建設課
	化3	高野 操	日本大学工学部工業化学科
	建6	佐藤 満夫	日本大学工学部建築学科
	建8	古橋 栄吉	日本大学東北高等学校
	電9	高久田 総	白河実業高等学校
	化14	小川 敏彦	日本大学工学部工業化学科
	電16	伊藤 義人	郡山市水道局建設課
	機17	鈴木 清司	郡山三菱自動車販売株式会社本社サービス部
	機17	今村 仙治	日本大学工学部機械工学科
会計監査	機2	菅野 宗和	日本大学工学部機械工学科
	化2	後藤 薫	日本大学工学部工業化学科
	建3	木村 圭二	郡山市役所農政課
評議員	電2	関根 昭一	郡山北工業高等学校
	土3	太田 雄八郎	郡山市役所土木建設課
	機4	根本 幸雄	日本国有鉄道郡山工場コンピューター室
	機4	近藤 功	二本松工業高等学校
	土5	梅原 正章	日東建設株式会社郡山営業所
	土6	佐藤 吉新	郡立共立水道測量設計
	土7	続橋 忠良	郡山市役所下水道課
	建10	橋本 寛	日本大学工学部建築学科
	土12	村田 吉晴	日本大学工学部土木工学科
	化13	五十嵐昭敷	日本女子工業高等学校
	電14	伊藤 宜世	オーディオ開成株式会社
	建15	馬場 彥吉	郡山北工業高等学校
	化16	野尻 大五郎	郡山市水道局淨水課
	建18	平田 六郎	郡山市役所建築指導課
	土19	長谷川 一夫	郡山市水道局建設課
	電20	曾部 忠義	郡山市水道局淨水課
	土21	広島 英憲	郡山市役所土木建設課
	建21	久野 清	久野清学園
東京支部長	土3	古村 和夫	古村建設株式会社(東京・千代田区)
東海支部長	土3	平野 卓	建設省中部地方建設局浜松工事事務所
北海道支部長	機7	蘭部 敬次	北海道開発コンサルタント株式会社

東海支部総会開催さる

第6回東海支部総会は去る54年6月23日、名古屋駅前、ホテルニューガーデンで会員多数出席のもとに、盛大に開催されました。

総会は平野卓支部長（土木3回卒）の挨拶で始まり、続いて来賓として出席された武藤貞泰副会長より校友会全般の活動状況、会員名簿の電算機処理（昭和54年度から3カ年計画）および日本大学90周年記念事業計画大要の説明と協力要請を含めて挨拶がありました。次に昭和53年度会務報告、事業報告、昭和54年度事業計画の説明があり、全員一致で無事総会を終了した。

懇親会では自己紹介や名刺交換で、自分の近くに先輩や後輩がいることを知った人、卒業以来何年かぶりで逢った人、私どもには大学の現状をたずねて昔と大きく変わった様子を知る人など話がはずみ、時が経つにつれ会場のムードが最高潮に達し、喜びとなつかしさで時間の過ぎるのを忘れ、楽しく過ごしました。最後に全員で校歌を齊唱し、再会を約束し、散会しました。

支部の中でも、とりわけ結束力が強く、活動力に富んだ東海支部は、総会に出席してみて、改めてその認識を強くさせられました。平野支部長を中心に、荒井勝雄（土木5回卒）、藤原正臣（土木6回卒）、河野、叶（土木6回卒）諸氏、支部幹部のチームワークの良さによるところが大きく、このような校友会なら是非出席して連絡を密にしたいと思わせる会でありました。昭和52年2月1日発行の校友会報（第30号）には「東海支部ゴルフ愛好会誕生」の記事が載っていますが、四季毎に年4回開催されるゴルフ・コンペ“東桜会”が東海支部の結束力と活動力の源にもなっているようです。（土木工学科第13回卒業 本会理事 西村孝記）

北海道支部総会開催さる

北海道支部総会が、昭和54年7月18日、札幌市中央区北大通西10丁目の札幌第一ホテルに於て開催されました。この総会は、大学が夏季休暇に行なう在学生に対する地方での父兄懇談会に、大学教職員が多数来道される機会に合せて毎年行なわれているものです。校友会からは、武田会長が出席され、校友も北海道全域から60余名の参加があり、盛大な総会となりました。

総会は、園部敬次新支部長（機7回卒）の挨拶で始まりました。神田前支部長が千葉県への転勤によって支部長が急きょ交替した経緯や、前年度の会計報告、事業報告がなされました。武田会長からは、校友会全般にわたる活動報告や、益々増大する校友会員の名簿の管理を、一層わかり易く、利用に際して便利になるようにコンピューター処理を行なうことになったことや、日本大学90周年記念事業の計画や募金の協力などについて挨拶がありました。次いで、大学を代表して福地教授（建築学科）が日本大学の現況など話されま

した。田嶋学生課長は、北海道支部がこのように大きく成長した発足当時のいきさつや想い出などを感概深く話され祝福されたり、就職担当の先生から、今後卒業される校友のための就職の依頼があつたりして、終始なごやかなうちに総会が終了いたしました。

引き続き懇親会に移りました。懇親会では、校友一人一人が自己紹介を行なったり、会社の紹介や現況報告する人、かくし芸を披露する人、名刺交換をする人途中で仕事を終えて網走からかけつけてきた人、久しぶりにお会いした人、近所に住んでいて今まで知らずにいた人、大学から出席された先生方と学生時代の想い出など話し合う人など、うれしさとなつかしさの雰囲気が会場一杯に広がり、時の過ぎるのも忘れ楽しい一時を過ごしました。

最後に、全員で校歌や寮歌を合唱し、お互いの健闘と来年の再会を誓い合って散会となりました。

（建築学科第10回卒業 本会評議員 橋本寛記）

機械科第8回卒業生のつどい

54年9月15日、東京私学会館でクラス会を開催しました。70名位の住所を確認しているのですが、集まつたのは写真に見られる通りです。吉沢・菅野の両先生にもご出席頂き、母校の現状等についてお話をありがとうございましたが、その変貌ぶりに驚かれた方も多かったのではないかと思います。これで2回東京が続いたので、次回は郡山で再来年という案がありますが、クラスの人々のご意見をお寄せ下さい。

幹事 山本、青木、大友、藏口、白沢



※校友会では、校友同志によって催される種々のつどい、あるいは会合等のニュースを、できるだけ報道いたしたいと思いますので、上記程度の記事写真などを投稿して下さい。

（事務局）

校友教授の誕生を祝す

校友会では、母校出身者の母校教授就任を祝して、昨年11月30日校友教授就任祝賀会を開催した。会は大袈裟になることを避けて、校友会歴代会長と理事、役員の出席したささやかなものであった。しかし、お互いに同窓の身であれば、母校への限りない夢や希望は語るほどに熱をあげてありました。

教授に就任されたのは、卒業後母校に在職され学位を取得された、電気工学科第1回卒業生国分欽智、工業化学科第2回卒業生後藤尚、同じく工業化学科第2回卒業生菊池光子の三氏であります。

会長からは、工学部が郡山に開設されて32年になり待望の校友教授が誕生した、この意義は大きく重いものである。校友にとっては誠に名誉なことであり本会としてお祝い申し上げます、との挨拶があり、記念品を贈って長い間の労をねぎらった。

これに対し、三教授から要旨つきのような御礼のごあいさつがあった。一要約、事務局一

本日は私達のために祝賀会を催していただきありがとうございます。校友教授として一段と重責を感じます。顧みますと、あの草ぼうぼうの校庭や、黒々とした校舎、設備の乏しかった実験室、一人何役もの先生方など、当時はとても心細かったものです。しかし、現在は、全国のどこの工学部にも劣らない立派な教授の方々がみえられております。施設や設備もほとんど不足はありません。これは学部当局、校友会、父兄会更に地域社会の努力や協力援助が相乗的に効果を上げた結果だと思います。この間の事情は工学部30年史に記されておりますが、本日お受けするこの祝賀はほかでもなくこのように学部を発展させて参りました力に負うところがほとんどで、私達の力はほんの一端であると思っております。

工学部なくしては現在の私達が在る筈ではなく、学究の道を歩ませていただいた日本大学工学部には深い恩義を痛切に感じております。この恩義に報いる方法は学部の発展に精一杯つくすことだと思っております。教授として就任したからには運営、人事、研究、教育などの指導的立場で校務を勤めることになりますが、私達は30年間、日大と共に歩んだ数々の体験を基にしてある時は積極的に、あるいは慎重に責務を全うして参りたいと思っております。

現在工学部は施設、設備、人事などの充実を更に怠ることなく、着々と創立40周年に向けて歩を進めております。学生諸君の地方就職の指向は地方重視の胎動であり、工学部の前途はむしろ洋々たるものがあると思います。

この時機に母校に教授として就任したのですから私達は、全能を擰げて頑張ります。

私は教職員や学生だけのものではなく、校友の皆さんの方に負うところも大でありますので、どうか今後とも深い友情と、御指導御鞭撻のほど心からお願ひ致

します。

この後、祝賀会は盛況のうちにすみ、9時予定の時間となり、三教授の精進を祈り、母校の発展を願って校歌を齊唱し、万才三唱の拍手と共に散会した。

なお、三教授の学位論文標題を記しますので、各位には、参考にされたい。

教授 国分欽智 「周期的層状媒質内における電波伝搬の研究」

教授 後藤 尚 「微量金属の高分子量アミン抽出を用いる原子吸光分析に関する研究」

教授 菊池光子 「三硫化モリブデン触媒によるテルペソ類および関連化合物の加圧接触還元に関する研究」

(事務局)



—校友三教授と共に—

広告の募集

校友会報に校友の皆さんからの「広告」を掲載いたしますので御応募下さい。

○会報の発行予定 年2回(7月と2月頃)

○会報の発行部数 約24,000部

○広告料金

規 格	左右×天地	料 金
変B5版 本文の約 $\frac{1}{4}$ 頁	143mm×47mm 又は 67mm×94mm	円 20,000
タ 約 $\frac{1}{4}$ 頁	67mm×47mm	10,000

○要項

①応募は校友及び校友の関連する企業等に限ります。

②原稿は隨時受付けますが会報紙面に余裕がなくなった場合は次号へ繰下げます。

③原稿内容の形式は自由(写真、図等含む)とし校友としての短信を入れてもよく又氏名を入れる場合は○○科○回率と記入して下さい。

④原稿はレイアウトして送付して下さい。(指定のない場合は事務局におまかせ下さい)。

⑤料金は原稿と共にお願いいたします。

(註) 銀行振込口座 秋田銀行郡山支店

普通402630

郵便振替口座 郡山1990

⑥詳しくは事務局まで御連絡下さい。

会員名簿の管理の電算機処理を始めるにあたって

工学部校友会では、第二工学部と工学部の卒業生を合わせて、18,026名の会員を擁し、その数は年ごとに増えることがあっても、減ることはありません。また、校友会活動の最も基本となるものは、会員の最新で正確な情報を常につかんでいて、それを会員に流布することであることも至極当然です。

このようなことから、校友会事務局では、5年前からこのことの研究を始め、いくつかの業者とも話し合いをもち、それらをまとめて、54年度の総会に提案しました。総会の席上、種々討議の結果、54年度から3年計画で、全会員の電算化をすることに決まりました。これらをもとに、漢字による会員管理について長い経験を持っている某コンピューターサービス社と契約を終り、実施の段階にきているわけです。

これらのこととは、一度にまとめて行なえば良いわけですが、事務局の能力をオーバーして却って不都合が生じてもなりませんので、3年間で全会員を網羅することになったわけです。電算機へ input するための原票は各会員へその記入を依頼するわけですが、今までに、第二工学部の第1回生～第14回生に依頼状を発送しています。該当者は総 5,000人ですが、現在その回収が着々と進んでいるわけです。校友会で既につかんでいる情報よりは多い情報を input したいわけですので、14回生までの人で、まだ原票を送っていない人は、至急送って下さるようお願いしたいわけです。

今のところの計画としては、第15回～第21回生の約 6,000 人については、55年3月に原票の記入方を依頼して、直ちに回収整理を行ない、第22回～第26回の約 6,000 人については、55年8月にそれを発送いたす予定であります。回収整理が終ったらその都度電算機に input するわけで、計画通りに行きますと、次のように output がされることになります。

昭和55年5月末に 第1回～第14回

第27回～第28回

昭和56年5月末に 第1回～第29回（全会員）

このように、input はその都度行ないますが、output は今のところ1年に1回の契約になっています。

この output ですが、input した情報をもとに、次のようなものが計画されています。

1. 基本名簿
2. 産業別名簿
3. 県別名簿
4. 課外活動（クラブ）別名簿
5. 出身県別名簿（出身高校名も記載）
6. 索引名簿
7. 校友会事務局に備えておく基本台帳
8. 必要に応じての郵便用宛名

これらのうち、1.の基本名簿は、この output した

ものをそのまま版下にして写真印刷すれば「会員名簿」が印刷製本されるわけで、原稿の作成やグラフの校正などがなくなり、的確で正確な名簿がつくれるわけです。この「名簿」は、20,000人とすると 500ページぐらいになり、これを製本して全校友に配布するのは無駄のようにも思えますし、どのように製本して、どのように配布したら良いかは、今のところ宿題になっていますので、諸兄姉の知恵をお借りしたいわけです。

その他の、2.～6.の名簿は印刷製本はしないで、必要な人に、必要な部分だけをコピーしてお分けすることになるだろうと思います。例えば産業別名簿では、建設業などは 3,000人位いるだろうと思われますし、75ページにもなり、コピーをするにも大変なことだろうと、今から心配しているわけです。しかし、県別に支部をつくるとか、クラブのOB会の名簿をつくるとかなどについては、充分に貢献できるだろうと思います。そのときでも、コピーや郵送の実費は負担していただくことになるだろうと思います。

これらの計画のほかに、output はどのような組み合わせも可能なわけで、「北海道に住んでいる建築学科の名簿」とか「全校友の中で教員をしている人の名簿」とか「全校友の女性の人の名簿」など、いろいろ考えられるわけで、これらについても、校友各位のご意見もお聞きしたいわけです。

また、output の8.にあります「宛名」のことですが、校友会事務局が定的に使う場合のほかに、各種の取り出し方ができるわけです。「化学科の福島県在住の人に手紙を出したい時」「機械科14回のクラス会の呼びかけをしたい時」「野球部のOB会のメンバーに手紙を出す時」など、事務局に申し込んでもらえれば、相談にのれるわけです。今のところ費用は、1回当たり10,000円と、1枚当たり9円の合計金額となっていますので、その分は負担してもらわなければなりません。

いずれにせよ、これらのためには、正確な情報を、input しておかなければなりません。変更などがあった時は、各校友から直ちに報告してもらい、年に4回のメンテナンスを行なうことになっています。そうすれば、宛名の引き出しの時には、常に新らしいものが引き出せることになるわけです。そのためにも、14回生までの人で、まだ原票を回送されてない人は、大至急送っていただきたいのです。それから、15回～26回の人は、依頼がありましたら、直ちに記入の上お送りいただきたいのです。これらをもとに、校友のための校友会を育ててゆきたいと思っています。

（事務局）

校 友 短 信

校友会の事務局にきたお便りや、その他の連絡などから無断で掲載いたしました。ご了承下さい。

◇高田昌実 (電気1回卒、東京電力(株)建設部)

現在 Indonesia に東京電力から派遣され、技術指導にあたっていますが、来年夏には帰国します。

(54. 9. 19受)

◇御代田栄 (化学2回卒、呉羽化学工業(株)錦研究所)

私は工業化学科2回卒ですが、4月1日付で、後藤尚、菊池光子両氏が、母校の教授になられたと聞き、自分のことのように大変嬉しく思っております。

(54. 12. 10受)

◇鈴木啓之 (機械4回卒、三機工業(株)ドル機械部工事課長)

ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、31年3月4回機械工学科卒業の、関東地区に勤務されている、クラスメートの詳細を教えて下さい。(54. 9. 5受)

◇吉田正博 (電気4回卒、福島県立塙工業高等学校)

卒業生の名簿作成は本当にご苦労様です。今後ともよろしくお願ひ致します。(54. 10. 18受)

◇内藤昌二 (土木6回卒、内藤設計事務所)

長年勤務していました株宮地鉄工所をこの春に退社し、目下個人にて橋梁をはじめとする鋼構造物の設計製図をやっております。ゆくゆくは法人組織にする考えです。(54. 10. 18受)

◇薄井義人 (機械6回卒、富士重工業(株)スバル技術本部車体技術第一シャシー設計課)

校友会から、学校の発展の状況や、学生の勉学の様子が（一部なりとも）わかりやすく解説された情報を、適時送って下され、誠に感謝致して居ります。母校の益々の発展と学生諸君の活躍（勉学）を祈ります。(54. 10. 2受)

◇飛知和孝志 (電気6回卒、日本国有鉄道東京南鉄道管理局電気部電力課主席兼助役)

53年1月から2月にかけて、国鉄欧州視察団として、3ヶ国5都市を訪問、54年10月に国鉄特別功労章を受けました。現在コンピューターシステムを使用して、電気検測装置の開発改良を行なっておりまます。これは世界に類のないものです。

(54. 10. 18受)

◇鈴木清八 (電気7回卒、ユニオンカーバイドジャパン(株)メディカル事業部技術部長)

いつも校友会報を楽しく拝見しております。校舎がすべて新築され、我々の時代と今昔の感があります。(54. 10. 12受)

◇石川猛彦 (機械8回卒、日産自動車(株)座間工場総務部安全衛生管理課長)

今までいただいている会員名簿は、現住所に本籍地があったり、現住所の電話のNo.のところに会社のNo.があったり、連絡をとるのには大変な時間と労力が必要です。その意味でも、今回の電算機処理の企

画は大変ありがたいと思います。これが完成したら再度名簿の発行をお願いしたいと思います。

(54. 9. 5受)

◇牛崎英次郎 (建築10回卒、(株)牛崎建築設計事務所)

12月より中近東のサウジアラビアに2年間出向する予定です。(54. 11. 26受)

◇角川宏介 (機械10回卒、東洋エンジニアリング(株)調達本部購買部主査)

長い間ご無沙汰致しております。10年前よりこの会社に勤務しております。購買部と云う職掌柄、日大O.Bの方にも時々お目にかかることがあります。郡山は第二の故郷と思い、一昨年訪ねてみました。母校を初め、あまりの変りようにびっくりすると同時に、順調な発展を嬉しく思いました。

(54. 9. 14受)

◇草野勝直 (化学10回卒、東洋製缶(株)広島工場生産管理課長)

卒業してから早いもので17年が経ちました。中国地方が広島県に、工学部校友会の支部のようなものがないでしょうか。誰か教えて下さい。

(54. 9. 22受)

◇平部延幸 (機械11回卒、日精樹脂工業(株)課長)

校友会からの便りが来る度に、母校の発展の様子がわかり、嬉しく思っています。卒業して早くも16年経過しましたが、一度も訪問しておりません。解体される予定の平家建実験棟は、我々が4年の時に建てられたもので、竣工ホヤホヤの実験室で、卒業実験を行なったのを覚えています。いつかチャンスがあったら訪れたいと思います。全国に散らばっている我々校友のために、今後共よろしくご活躍の程をお願いします。(54. 9. 13受)

◇高野博司 (電気11回卒、(株)タツミ製作所品質管理部次長)

昭和35年当時電気研究会にて創設したアマチュア無線局（コールサインJA7YAI）は、クラブ局としては東北地方でも7番目に古い局です。創立者はJA4OK、JA2OF、JA0VQ等電気工学科昭和38年卒業の面々ですが、その後JA7YAIのコールサインでクラブが活動していないと聞きます。是非復活していただきたい。(54. 9. 10受)

◇栗林俊夫 (機械12回卒、不二化学工業(株)工機工場工機係長)

校友会からの通知・連絡を楽しみにしています。日本大学工学部及び日本大学工学部校友会の益々のご発展を心より念じています。是非一度お邪魔したいと思っています。(54. 9. 20受)

◇橋本順光 (電気12回卒、(株)渡辺電務社本社工事部工事長)

当社の社長渡辺豊定（旧姓沢村）は、専門部工科建築科の2回生で安積中学出身です。昨年より事務局へ工学部出身者の募集手続をしています。採用の際は面倒をみますので、よろしくお願ひします。

（54. 10. 2受）

◇大根田能夫（化学12回卒、株淡陶タイル）

51年末から、スリランカのコロンボのSri Lanka Wall Tiles LTDに出向勤務しています。49/18 Fibre Road, Colombo 5, Sri Lankaにいます。

（54. 12. 4受）

◇植田厚雄（建築13回卒、株共信建築事務所取締役建築部長）

現在、東京青年会議所のメンバーとして頑張っています。

（54. 9. 3受）

◇森慎一郎（建築13回卒、東京都品川区役所建築部営繕課建築主査）

パレーボール部OB会を東京で発足させようと思いましたが、（5年前）名簿作成などでうまく行かず、失敗に終りました。現在パレーボール部やOB会はどうなっているでしょうか。（54. 9. 29受）

◇清水達夫（機械13回卒、三井不動産建設株）

現在、MITSUI HARBOUR & URBAN CONSTRUCTION CO, LTD. SINGAPORE BRANCH GENERAL MANAGERとしてシンガポールにあります。

（54. 9. 26受）

◇新沼邦良（電気13回卒、東北工業大学電子工業高等学校電子科）

昭和52年に母校の工学部に1ヵ年聴講生として教職課程を受講、おかげで数学の高校2級の免許を取得しました。

（54. 9. 3受）

◇深谷敬一（電気13回卒、菱電サービス株北海道支社）

校友会員数が18,000余名ときいて、大きくなつたなあと感じております。小生のように各地域を歩いている者にとっては校友会の諸先輩等と会う機会が多く、会員名簿等を活用しています。今度、東京支店冷機部より北海道支社に転勤になりました。クラブ別名簿は、要望すれば配布していただきたいと思います。

（54. 9. 5受）

◇田口吉夫（化学13回卒、エーザイ株海外事業本部台湾支店台南工場技師長）

53年7月より台湾に駐在しております。皆様によろしくお願い致します。

（55. 1. 10受）

◇久保田和夫（化学13回卒、久保田屋商店）

長野県の野沢温泉にいます。私たちのときは「スキー同好会」としてスタートしましたが、それが、現在の「ゲレンデスキート同好会」なのか「スキーパーク」なのですか。

（54. 9. 29受）

◇栗原 稔（土木14回卒、埼玉県議会議員）

54年4月に行なわれました統一地方選挙で、埼玉県議会議員に当選させて頂きました。当県における問題等ございましたらご連絡下さい。できる限りの

努力と協力をおしみません。（54. 10. 1受）

◇野木修平（土木14回卒、飛島建設株土木部海外工事課）

54年12月15日付で本社勤務となり、海外勤務となるようです。

（55. 1. 10受）

◇花森建男（化学14回卒）

静岡市内で自営です。花森スタイル研究所、（有）東海パラ化粧品をやっています。欲が深いものですから、美容師・催眠師範教授資格・アートフラワー教授資格・ボディデザイナー・メーキャップ教授資格などとりました。

（54. 9. 5受）

◇佐藤 敦（化学14回卒）

郡山市内で（株）郡山テニスクラブの常務取締役支配人をしています。日本庭球協会1級公認指導員と云うことで、はりきっています。

（55. 2. 10受）

噂のページ

◇小林力君（電気13回卒）

昭和45年から母校に勤務し、現在、電気工学科で専任講師をしておられます。日頃の研究がみのり54年3月16日に、「油中の超音波音場における固体の発熱現象に関する実験的研究」で、日本大学（理工学研究科）から工学博士の学位が授与されました。

（事務局）

◇桂啓文君（化学15回卒）

卒業後、岩手医科大学歯学部歯科理工学教室に勤務されていますが、「歯科用陶材の強化法に関する研究——物理化学強化法による機械的性質について——」の論文で、54年3月16日に、日本大学（歯学研究科）から歯学博士の学位が授与されました。

（高野操・化3）

◇久野清君（建築21回卒）

在学中から、郡山市方八町で学習塾を開くなど、異色の存在でしたが、54年4月の地方選挙で、郡山市議会議員に当選されました。うちの校友としては初めての快挙です。27才。独身。前途ようようたるものがあります。

（武田仁幸・土3）

※校友諸氏の日頃の御活躍には敬意を表します。母校の発展は、学部のお力に負うことは申すまでもありませんが、我々校友の努力なくしては全うすることができません。こんな努力の姿や、功績など、社会的に高い評価をうけ、我々の範とするに足ることからについて本人が語るのは遠慮があると思いますので、校友が記事にする欄「噂のページ」を設けました。投稿を歓迎いたします。

（事務局）

海外視察記

旅の情 佐藤光正

日本大学より外国の水資源に関する視察の命をうけて、昨年の7月日本を発ち約3カ月にわたりヨーロッパ諸国を訪ねて参りました。

なにしろ昭和36年に母校工学部の機械工学科に職を奉じて以来のこと、不慣れな者が一人とぼとぼ旅をするのですから自他ともにたいへんなことありました。しかし何とか事なきを得て帰国し、当時を静かに想い出すことができるようになった昨今、一番心に浮かぶのは行った先々でお世話になった市井の方々の好意であります。

ロンドンのホテルで、日本語を少し話せるフロント係のボーイがありました。彼の上役はいかにもイギリス人らしく、いつも威厳をもって客に接しておりましたが、このボーイの私に応待する態度は上役に気兼ねしながらなんと日本人的であったことか。

私は彼にすくなからず興味があったので、上役の居ないとき上手な日本語をどこで勉強されたのか尋ねたところ長年ラジオを利用しておぼえたとのことでした。後刻、この方には私の旅の途中まで同行した娘がイギリスの友人とどうしても会うことができなくて日本からのおみやげに持参した晴着をその友人に宛て、発送するときとてもお世話になりました。

山の上のベルゲンの飛行場で、ベルゲン市内に行くバスを待っているときでした、明瞭な英語で君は日本人かと問われたので振向くと小さな女の子の手を引いた老人が立っていた。私が日本人であると判ると一段と笑を深め日本のこといろいろ話し合った。そのうち自動車のことに話題がおよび自分の自家用車は4台とも全部日本車だと肩を張った。そのあげく君はバスなどに乗らないで自分の車に乗りなさいと言いました。なりゆきとは申せ日本でさえも体験したことのない事態となり今飛行機で着いたばかりの国でしたからいさきか不安であったがふくよかな幼女の瞳をみたとき、心が安らかになり団々しくも同乗させていただき間違いなく宿に着くことができました。こんなことから数日のベルゲン滞在中もたいへんご好意をうけ旅の意義も一層深いものになりました。

ヨーロッパはどこでも同様ですが、土曜日の午後から日曜日にかけてショッピングや見学が、ほとんどできません。私はウッカリしてウィーンではすんでのところで工業製品を観る機会を失うところでした。これはたまたま土曜日にぎやかな公園を一人散策している私に声をかけてくれた公務員氏に気付かされたのである。私は今まで各国の工業製品を注意深く見てきたし是非オーストリアの状況を知りたかったものですから気付いたときには全く残念に思いました。この心情を察したのでしょうか、彼は商品見本市が開かれているか

らそこに行ってみてはどうか、とす、めてくれました。早速、教えられたところに駆けつけたのであるが、当日は招待券を持っている者だけが入場を許されていたでした。ただし学生はこの限りでないとのことだった。しかしこのことを知らない私は受付の窓口に着くやいなや、「入場券を下さい」といったものであるから係の者は招待券のない一般客と判断し入場させてはくれませんでした。私は誠に心のこりで、入口から立ち去りかねていると入場券のモギリを担当していた2人の老係員が、気の毒に思ったのか、柵の中からなぐさめのことばをかけてくれました。

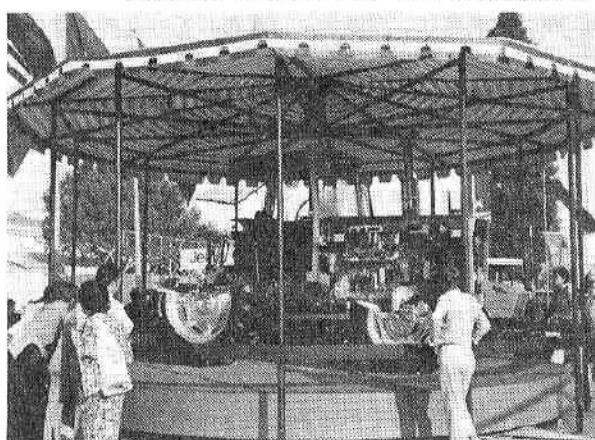
問われるまゝに、日本から来てこの見本市を覗かないで帰るのは私にとってあなたの国にとっても大きな損失だと思うのだが、と口惜しさとあきらめとから少少大袈裟に申し上げたら、この御2人、瞬時間を見置いて、異口同音、なんだお前は学生か、日本の学生か！………と聞えよがしに大声を出したのである。そして君は入ってよろしい、といって扉を開けたのでありました。一体どうして？………私は自分が学生だといったおぼえはないし、招待券のないことは先刻より判りきっている筈なのに………。

しかし咄嗟に謎は解けました、理由はともかく、2人のモギリ氏は私を学生だということによって会場に入れる妥当性を主張したのでした。事の急変に躊躇している私の腕をとらんばかりに2人は招くのでした。私はオドオド受付の窓口に目をやりました。受付氏は万事知っているのに素知らぬ顔をしていました。

あゝ、何という奇計、何というユーモアか！………私は許されて（？）、ついに広大な会場に入ることができました、そして心ゆくまで見て回ったことは申すまでもありません。

帰路、あの入口に立寄ったがすでに係の者は交替していて彼等に再び会うことはできませんでした。しかし夕暮の街なみを歩きながら心底より限りない満足と感謝の念がこんこんと湧いてくるのを止めることはできませんでした。

（機械工学科第9回卒業・工学部専任講師）



展示のカットトラクターで構造を見る人々

CAMPUS

mini MEMO

◇ 工学部長に広川教授が就任

昭和54年4月1日付で、工学部長に広川友雄教授（一般教育・物理）が就任されました。

広川教授は、42年8月から43年10月まで、工学部長を勤められており、今回が2度目の就任です。

◇ 校友の母校での教員

昭和54年4月1日付で、次の卒業生の教員が昇格されました。

教 授 工業化学科 菊池光子（2回卒）工博
後藤 尚（2回卒）工博

専任講師 建築学科 倉田正春（18回卒）
電気工学科 上田 剛（19回卒）

一般教育科 永嶋誠一（電20回卒）工博
また、次の方が、54年4月1日付で、理工学部から転属になりました。

専任講師 建築学科 倉田光春（17回卒）工博

◇ 資料室で岡部菅司展

53年に発足した工学部資料室委員会（室長横井博教

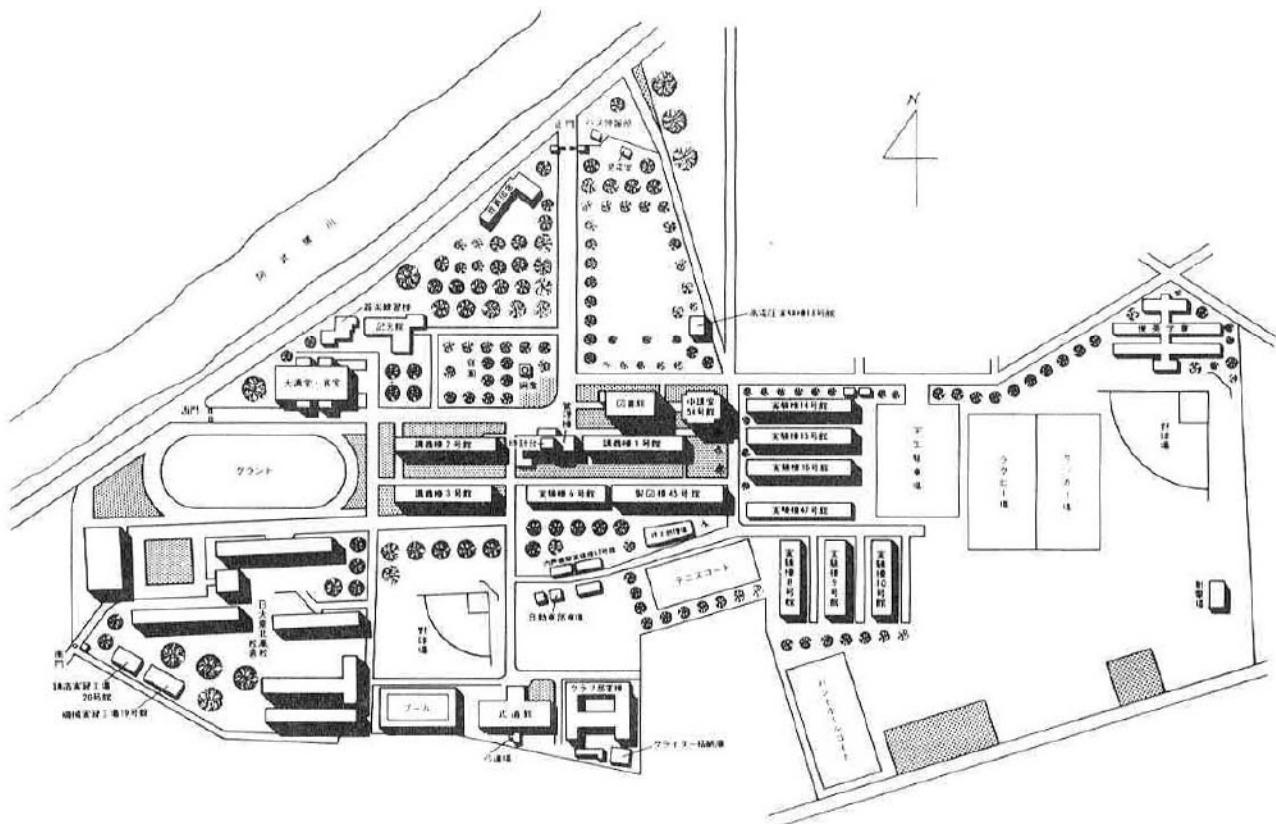
授）では、54年秋の学部祭を期して「岡部菅司先生遺品展」を資料展示室で開きました。資料展示室は、校友会事務局と同じ30周年記念館内にあり、学部祭の期間中は、新聞やテレビで報じられたこと也有って、多くの市民や卒業生が見学に訪れました。

展示されたものは、若い頃の日記、芥川龍之介はじめ有名な文人や、経済学者ケインズととり交した手紙、外国の雑誌に掲載された論文などで、いずれも在りし日の先生の姿をほうふつとさせるものばかりでした。これらは先生の奥様のご好意により、工学部に寄贈されたものだそうです。

◇ キャンパス散歩

54年夏に南東のグランド付近に新らしい実験棟が完成しました（表紙）。床面積 2,658m²の鉄筋コンクリート2階建で、3棟あり、これによって、正門入ってすぐ左側にあった平家建実験棟の6棟（37年10月に完成）は解体されることになりました。

下図は最新の校内配置図です。校友会事務局は記念館内にありますので、気軽に訪れて下さい。（た）



事務局だより

日本大学工学部校友会

会員各位殿

昭和55年3月1日

日本大学工学部校友会

会長 武田仁幸

昭和55年度総会通知

校友の皆々様には、各職域において益々御健斗のこととお慶び申し上げます。

さて本会会則第29条により、日本大学工学部校友会昭和55年度総会を下記により開催いたしますので、先輩、後輩お誘いあわせの上多数御出席くださるよう御案内申し上げます。

記

1. 日時 昭和55年4月26日（土）午後2時
2. 場所 日本大学郡山研修会館（郡山市愛宕町2-22）TEL (0249) 23-4193
3. 議題 昭和54年度会務及び決算報告、昭和55年度事業及び予算（案）審議、役員選出、その他
4. その他
 - (1) 諸般の事情により、本号に掲載の上記案内によって総会通知といたしますのでご了承がります。
 - (2) 出席なさる方は準備の都合もありますので、なるべく御連絡くださるようお願いいたします。
 - (3) 総会終了後、引き続き同所において恩師を迎える懇親会を予定しております。
 - (4) 研修会館宿泊希望の方は5日前までに母校庶務課（TEL 0249-44-1300代）に申込んでください。

研修会館の案内



住所等の異動について

次のような異動があった場合はお忘れなくすみやかに事務局宛にハガキ又は電話等で御連絡くださるようお願いいたします。会報等送付しますと毎回相当数が住所不明で返送されて困っております。

1. 現住所が変わったとき（電話とも）
2. 勤務先が変わったとき（会社名、役職名、住所、電話、等）
3. 改姓したとき（旧姓とも）

北海道支部

支部長 園部敬次（機7回）北海道開発コンサルタント㈱
事務局長 船越政明（土15回）札幌市役所道路建設課

東京支部

支部長 古村和夫（土3回）古村建設㈱

東海支部

支部長 平野 卓（土3回）建設省浜松工事事務所
事務局長 河野 叶（土6回）東名開発㈱

校友会報第35号

発行所 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 979-66
電話番号 郡山(0249) 44-1327
振替口座番号 郡山 1990
発行日 昭和55年3月1日
発行者代表 会長 武田仁幸
編集者代表 事務局長 佐藤光正